

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2372501169
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン
事業所名	グループホーム 第2グレイスフル春日井
訪問調査日	平成21年3月5日
評価確定日	平成21年4月1日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2372501169
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン
事業所名	グループホーム 第2グレイスフル春日井
所在地	春日井市牛山町3195-1 (電話) 0568-32-6757

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成21年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年9月2日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高	94 歳	
協力医療機関名	井上医院・あさひが丘ホスピタル・春日井市民病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは法人併設建物の2階部分にある。周辺は田園風景が広がり、日当たりの良い南向きの各居室からは木製の広いベランダに出ることができる。建物内には介護老人福祉施設やデイサービスセンター、ショートステイ、地域包括支援センター、生活支援ハウス等の施設があり、日頃から交流や行事の連携などしている。また、建物内にある地域交流センターにおいて地域の人達との交流もあり、「認知症予防教室」ではハウスマネージャーが講師を務め、認知症への理解の啓発、浸透に努めた。法人の運動会や納涼祭には多くの地域住民が訪れる。法人は多様な介護施設を十数箇所経営する社会福祉法人であり、研修も法人内部で充実して実施されており、職員の各種資格取得についても支援体制が整っている。ホームには「つばやきノート」があり、日常の入居者の何気ない言葉を職員が自由に書き込み、介護計画見直しに役立っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回法人理念とは別にホーム独自の地域密着型サービスを盛り込んだ理念への取組が期待された。職員で話し合い、取り組みホーム独自の理念を作り上げ玄関、廊下、事務所に掲示し、実践に日々取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や目的について管理者、職員共に理解し、忙しい日々の業務の中で項目も多く大変だったが、全員で自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族、地元区長、市介護課職員、地域包括支援センター、施設長、職員をメンバーとして開催されている。地元の大型ショッピングセンター職員にも一度参加してもらった。土曜日に開催して家族の参加も促している。会議では行事や入居者の様子、事故報告などし、家族や市、区長、地域包括センターからは夫々の意見が出され、ケアの向上に生かすように努めている。今回の評価結果も運営推進委員会で報告、意見をもらい、改善していく。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	契約時に苦情や相談窓口を説明し、面会時や運営推進会議の中で、また、年に2度満足度アンケート調査をして意見要望を聞いている。誕生会やクリスマス会等の行事への参加を呼びかけ、その際にも話を聞くように努めている。1階の事務所前、2階のエレベーター前に意見箱も設置している。意見を言いやすい環境づくりをし信頼関係を築いていくことが大切と考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、地域の集いや行事に参加し「介護予防教室」では講師を務め認知症への理解の啓発、浸透に努めた。運営推進会議には区長や地域の大型スーパーの方にも参加してもらい、理解を深めてもらうよう努めている。社会福祉協議会において月1回開かれる「ぬくもりの集い」に参加し、建物内にある地域交流センターにおいて地域の人達との交流もある。各種のボランティアを受け入れており、地域と連携が築かれてきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の中には「地域とともに少子高齢化を考え、安全なまちづくりに貢献します」と職員の地域における心構えが説かれている。入居者にとってホームは自宅であり、そのホームを中心に入居者がどう地域に溶け込み、地域の一員としてその人らしく生活し、入居者の持てる力を地域に還元するための指針として、ホーム独自の理念を今回話し合っつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、廊下、事務所に掲示されている。職員手帳にも明示され各職員は携帯し確認、浸透している。毎朝申し送り時には唱和して共有している。また、理念は介護していく基本を文章化したものと捉えており、ケアの方向性を話し合う会議では理念を確認、共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の集いや行事に参加し、「介護予防教室」では講師を務め認知症への理解の啓発、浸透に努めた。運営推進会議には区長や地域の大型スーパーの方にも参加をしてもらい、理解を深めてもらうよう努めている。社会福祉協議会において月1回開かれる「ぬくもりの集い」に参加し、建物内にある地域交流センターにおいて地域の人達との交流もある。食材は近所のスーパーへ入居者と一緒に買いに出かけている。各種のボランティアを受け入れており、地域と連携が築かれてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的について管理者、職員共に理解し、全員で自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。前回の評価で法人理念とは別にホーム独自の地域密着型サービスを盛り込んだ理念への取組が期待された。職員で話し合い、ホーム独自の理念をつくりあげ玄関、廊下、事務所に掲示し、実践に日々取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族、地元区長、市介護課職員、地域包括支援センター、施設長、職員をメンバーとして2~3カ月に1回開催されている。地元の大型ショッピングセンター職員にも一度参加してもらった。土曜日に開催して家族の参加も促している。会議では行事や入居者の様子、事故報告などし、家族や市、区長、地域包括センターからは夫々の意見が出され、ケアの向上に活かすように努めている。今回の評価結果も運営推進委員会で報告、意見をもらい、改善していく。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>申請時や事故の報告、管理者の変更届はもとより、制度が変わる時や入居者の状態が重度化した時など市の介護担当者に随時報告、相談して情報交換し、運営やサービス向上に協力を求めている。市の介護担当者や地域包括支援センターには運営推進委員会にも参加してもらいアドバイスもいただく。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時には積極的に話しかけ、日常の様子や職員の退職異動を報告している。また、2~3カ月に1回写真を多く用いた「ホームたより」では入居者の表情を伝えるほか、管理者が一人ひとりについて手紙で体調の報告や往診の医師からの伝言や報告、行事のお知らせをしている。体調急変時には電話で連絡をとっている。預かり金については家族来訪時に確認してもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情や相談窓口を説明し、面会時や運営推進会議の中で、また、年に2度満足度アンケート調査をして意見要望を聞いている。誕生会やクリスマス会等の行事への参加を呼びかけ、その際にも話を聞くように努めている。1階の事務所前、2階のエレベーター前に意見箱も設置している。意見を言しやすい環境づくりをし信頼関係を築いていくことが大切と考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は避けられないが、最小限にとどめ、職員が欠けた場合も混乱が起きないように行動や身体面に注意し、他の職員でサポートしていく。新人職員は1カ月ベテラン職員について顔馴染になり信頼関係を築いていく。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人母体が大きく法人内の研修が充実しており、月1回は何らかの研修に職員が参加している。勤務時間内に参加できるよう配慮もされている。資格取得に対しても受講費用や各種資格手当の支援もある。法人内研修のみならず県のグループホーム協議会等の法人外研修も積極的に促している。最近では「認知症について(長谷川式)」など研修した。法人内の6グループホーム部会でも研修し、互いに情報交換しあっている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の6箇所のグループホーム部会で協力して合同の勉強会や交換研修で積極的に情報交換し、交流を図り他のホームの意見や経験をケアに活かしている。また、国や県のグループホーム連絡協議会に参加し研修会後情報交換し、交流を図っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前、本人や家族に何度も来所してもらい、他の入居者と一緒に過ごして、雰囲気馴染らせてもらっている。そして困っていることや要望を聞き、何が必要か、入居者本人の個性に対応した介護を目指している。時には職員が家庭を訪問し様子を見ることもある。他のサービスを利用していることも多いのでそこからの情報も得て、今までのペースで生活しながら馴染んでいけるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は若い職員が多く、入居者を「人生の先輩」として敬意を持って接し、孫とおばあちゃんの関係で料理や掃除の方法、季節の行事や行事食など生活全般にわたりいろいろ教えてもらい一緒に作るなど、互いに助け合い支え合っていると感じている。入居者は職員に「ありがとう」「ご苦労様」と気遣ったりねぎらったりしてくれ、職員の明日への活力になっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「つぶやきノート」を作っており、入居者の日頃の何気ない一言を毎日記録し、口に出さない本人の思いや希望を把握し、ミーティングで検討して介護計画に反映させている。入居者の状況によっては行動や表情から汲み取ったり、1対1で話をじっくり聞き思いや意向の把握に努め、意向を尊重し希望に添えるよう取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前の見学や体験時の情報に加えて入居に伴う希望や情報を本人、家族からできるだけ多く収集して、1週間から1~2カ月の期間で生活プランを介護支援専門員が作成している。関わる職員全員で毎日の生活から課題や気づきを記録にして申し送りをしている。入居者本人の望む生活が送れるようアイデアを出し合う機会を持っている。緊急性を見極め毎月会議で行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態が落ち着いている場合の短期目標は内容により3カ月、長期目標は6カ月としている。毎月の会議でケアカンファレンスを実施して現状に即した見直しができる体制も持っている。入居者の「つぶやきノート」や1日の様子が詳細に記録されるデイリープランからの情報を丁寧に話し合い、新たな計画を作成して本人や家族に説明をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>隣接して法人内施設があり本人、家族の要望に沿えるよう連携をとり活用している。医療連携体制をとっており看護師により日常の健康管理、特変時の対応、夜間の連携、早期発見など入居者や家族の安心に繋がる支援をしている。入院時は見舞いに出かけたり、併設施設へは入居者と訪問することもある。福祉用具レンタルの支援があり、外泊や遠出の外出にも柔軟な対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地元の協力内科医、精神科医の訪問診療が毎月、隣接の施設では毎週1回往診があり、体調急変時には診察を受けることが可能で敏速な医療が受けられるよう支援をしている。眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科などご家族の協力がかかりつけ医を継続受診している。受診結果や薬剤についての情報交換をして現状を把握している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の契約時にホームの指針を丁寧に説明して同意をいただいている。重度化や終末期に直面した場合、本人や家族の不安、動揺が最小限になるよう併設の他職種と連携をとっている。医療に委ねるまではホームで生活を維持できるように医療の協力体制を家族、職員全員で話し合い方針を共有している。また、状況や治療方針、近い将来についてかかりつけ医から話をしてもらっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録など個人情報については、鍵のかかる場所に保管をしている。記録は事務所で行ったり、個人別のホワイトボードには特定が容易にできないようイニシャルを使用して個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。入室の際はノックを忘れない、自尊心を傷つけるような言葉は使用しない、トイレ、入浴など羞恥心に配慮した言葉や声のトーン、周囲への配慮を徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>掃除、食事など1日のある程度のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを尊重し、レクリエーションへの参加や散歩など本人の望む過ごし方を自己決定してもらおうよう支援している。1階の喫茶室へコーヒーを飲みに行ったり、近くの地蔵をお参りしたりする。体調の悪い時は居室でゆっくり休んでもらったりもする。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞いたり、旬のものを取り入れた食事を提供できるよう支援している。栄養士からのアドバイスを取り入れ懐かしい豆料理や塩分を控えた味付けを入居者と職員で調理している。配膳下膳はもとより、野菜切り、煮物、盛り付けを数人が一緒に生き生きと行なっている。加えて食器洗いの手さばきはまだまだ現役である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴が可能であり、清拭、足浴などの対応も希望によって支援している。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しむ支援や入浴剤で保温効果を出している。かけ流しのお風呂は気の合った人同士の入浴が支援されている。拒否のある方へは時間をかけて雰囲気づくりを工夫して気持ちよく入れる環境を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの持てる力ややる気を大切に捉え、馴染みのある掃除道具や園芸道具が目に着きやすく手に取れる環境で支援をしている。日常生活では掃除、調理、配膳、洗濯干しや衣類たたみなど自発的役割に生活歴を發揮している。得意分野や趣味が継続できるようにボランティアの力も借りながら絵手紙、書道、プリザーブドフラワー、紙芝居、カラオケ、針仕事、音楽療法、ボーリング、ゲートボールと数え切れないメニューを提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	楽しみ事や気晴らしはホーム内だけでなく併設施設に出かけたり、洗濯干し場のランタナーの世話に自由に出て外気に触れたり、隣接するグラウンドでスポーツ観戦ができる。天気の良い日には近くの公園に出かけたり喫茶店に立ち寄ることもある。食材の買い出しや大型スーパーに買い物に行ったりその日の希望に添うよう声をかけ支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害について「身体拘束廃止」の勉強で職員の理解を深めている。施設の2階にあるホームは玄関、居室、ベランダに通じる大きな吐き出し窓は自由に出入りが可能である。玄関には大きな暖簾に鈴を取り付けたりセンサーを活用して安全面に工夫や配慮をしている。台所の刃物はスポンジでクッションのある袋の中に入れ、届き難い場所で保管するなど、どの場所にも鍵をかけない工夫で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回消防署の協力を得て施設全体で実施している。机の下に隠れる、ヘルメットを着用する、非常すべり台を使用して避難をする等、落ち着いて行動できるように実施している。地域へ参加の呼びかけを行ったり、地域の防災訓練に入居者と職員が参加をして炊き出しなどの手伝いをしている。5階建ての中にあるため月1回全体で日中や夜間想定で避難訓練を実施しており、ホーム独自で入居者と夜勤者が避難経路に障害物はないか、防火チェックを毎日実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは月初めの体重測定や血液検査で見極めている。法人内の栄養士からアドバイスをもらったり、カロリーが表示がある献立を参考にしている。水分は1,000~1,500mlを目安に摂取量を食事量と共に記録して支援をしている。個人用のコップにはメモリを表示して分かりやすい工夫をしている。個別に状態を考慮した介助や食器の工夫があり塩分の取りすぎに配慮した献立も取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の一部には畳で過ごすことができ、明かりの調節は障子が使用され懐かしい空間がある。数人用のソファが幾つか準備され思い思いに過ごせる配慮がある。ベランダはテーブルや椅子があり日向ぼっこにも使用できる。手すりは風呂場、トイレ、廊下には2段に設置され使いやすく安全面に工夫がある。キッチンとは別に流しと調理台があり動きやすくなっている。季節の花や野菜を見ながら過ごせる大きな窓があり明るく開放的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁には家族との写真や手作りの絵手紙を使ってカレンダー、趣味や楽しみ事の作品が飾ってある。テレビ、タンス、寝具、ハンガーなど使い慣れた家具が持ち込まれている。仏壇には花を飾り、おぶくさんが供えられ先祖を想う心と生活習慣の継続で居心地のよい居室の支援をしている。動物好きの方には犬や猫の写真を飾って和める工夫をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。